

長唄絵合せ

第3回 崩れゆく憂き世をよそに

人間界に何が起きようかと、

四季は廻り再び春がやってきます。

絵と音と立体が紡ぎだすUKINEの世界。

今回は、平安時代の六歌仙を大胆に脚色した
粋で洒脱な歌舞伎舞踊曲をご紹介します。

一八五三、嫌でござんすペリーさん

その蒸気船にかけられた、たった四杯で

夜も眠れぬほどの銘茶・上喜撰、

このネーミングの素でもある、

墨染の身でありながら、桜の花枝を肩にかけ、

小町姫を口説く伝法な喜撰法師。

江戸後期、文化が爛熟した化政時代を過ぎ、

頻発する打ちこわし、外国船の到来、

果ては幕府の役人が反乱を起こし、

苛烈な政治改革が断行された

幕末前夜の天保年間。

底抜けに明るく賑やかな音曲で踊り騒ぐ

一方で、鮮やかな景色を見る心の闇。

人々は桜の花に何を見たのでしょうか？

番組

長唄 喜撰 きせん

小町以外の五歌仙を早替的に踊りぬいた二代目中村芝翫「六歌仙容彩」天保2年(1831)の内の一曲。ちよほくれ、住吉踊り…愉しさここに極まり。

舞踊 蓬菜 ほうらい

改革により天保13年、大火による芝居町の焼失もあって江戸三座は浅草に移転。遊里に耽り名曲をものした四代目杵屋六三郎の描く仙境とは。

横山 コレクション

解説担当の國學院大學名誉教授・横山實は中央大学在学中の1964年、リッカーマシン創業者・平木信二氏収集品に触れ浮世絵の魅力に開眼。72年、河鍋曉斎「酔狂図」を入手以来、春信、歌麿の美人画ほか、数多くの絵師の名品を収蔵。

今回の見どころ◆浮世絵愛好家垂涎の小町シリーズを、春信から芳年までのもの4点、爛熟した風俗を描いた英泉の藍摺りの花魁「花紫」、廣重「吉原の夜桜」、天保の改革での風紀取締りを風刺した國芳「無駄書き」など11点ほど。



UKINE

美術と音楽を同時に鑑賞して戴きたいという思いから、日本が世界に誇る三種の伝統芸術のコラボライブを主催するプロデュース・ユニット。浮世絵+三味線の音色=浮き音。



横山 實

よこやま・みのる◆國學院大學主催の歌麿展、廣重と同時代の絵師の浮世絵展、役者絵展(鎌田コレクション館等)で収集品を展示。「浮世絵の歴史」(専修大学のゼミ)、「浮世絵美人画の変遷」(42年白門会)、「浮世絵に挿入された文字」(千葉古文書の会公開講座)等の題目で講演。



立花 志穂

たちばな・しほ◆玉川大学文学部芸術学科芸術表現コース卒業。主に舞台美術を専攻し演技・舞踊・声楽も学ぶ。2002年宗家立花流入門。立花志津彦師に師事。08年師範資格。地歌舞伎の指導、各自治体や学校機関における活動を通し、子どもたちの育成に努めている。



杵屋 徳枝

きねや・とくおう◆1984年國學院大學法学部卒。横山ゼミOG。十代は美術系、二十歳頃から落語や歌舞伎に魅入られ杵徳派家元・杵屋徳衛に師事。92年杵屋衛蝶の名を許され2001年杵屋徳枝で師範。演奏活動のほか学校教育や芸事指導など長唄の普及に心を砕く。三絃楽団shami座、和みの音蔵・美るり主宰。



東音 越智義乃

とうおん・おち・よしの◆13歳のとき吉住小十師に手ほどきを受け、17歳で故東音菊岡裕見師に入門。東京藝術大学音楽学部邦楽科、同大学院卒業。長唄東音会同人。義乃の会を主催、古典に創作にと長唄を研鑽する一方、一中節を宇治はる師に師事、宇治し乃、荻江節の荻江寿風の名も持つ。演奏会、舞踊の地方でも活躍。新作の発表も行う。



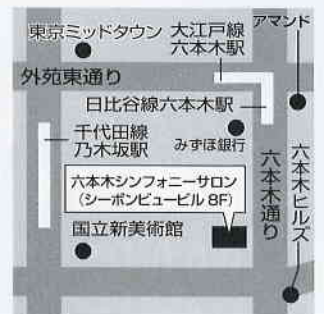
杵屋 徳衛

きねや・とくえ◆祖父が別派初代家元・三世杵屋勝吉、父は四世松永和風門下・松永鉄造、母は五世勝吉という長唄一家に育つ。1962年勝左近、のち勝衛、83年祖父の跡を継ぎ杵屋徳衛で三代目家元に。楽理・現代曲を山川直春、巖正典に師事。新案譜の開発、創作曲多数。TV番組・新諸国漫遊記テーマ曲「風まかせ」の歌声も。

会場 六本木シンフォニーサロン
http://symphony-salon.com

〒106-0032
東京都港区六本木 7-18-12
シーボンビュービル 8階
TEL:03-5772-4619

- 東京メトロ日比谷線 六本木駅
2番出口より徒歩1分
- 都営地下鉄大江戸線 六本木駅
4b出口より徒歩3分
- 東京メトロ千代田線 乃木坂駅
5番出口より徒歩7分



お申込み・お問合せ

TEL:03-3468-0330 杵屋 MAIL:ukiyo33ukine@yahoo.co.jp

または各出演者まで

浮世絵を間近に鑑賞していただきたいため、38席限定でご案内しております。